

# 学校との連携

子どもたちの、園での遊びの様子や体験の内容を伝えたり、就学してからの学びのつながりを検証したり、幼児と児童や生徒との交流など、学校との連携の工夫を重ねている園があります。また、子どもたちの興味や探究を学校と共有し、活かした連携は、子どもたちの育ちを支え、主題につながるより豊かな体験が期待できます。

## 学びのつながりを共有する展示



### 保育者の思い・作成の工夫

小学生が、「幼児の時に経験したヒマワリ迷路のことを思い出しながら見てほしい」「自分よりも背の高いヒマワリに囲まれ、楽しんでいる様子を伝えたい」と、作成した。ヒマワリの高さが分かる写真を選択し、園のヒマワリも載せた。

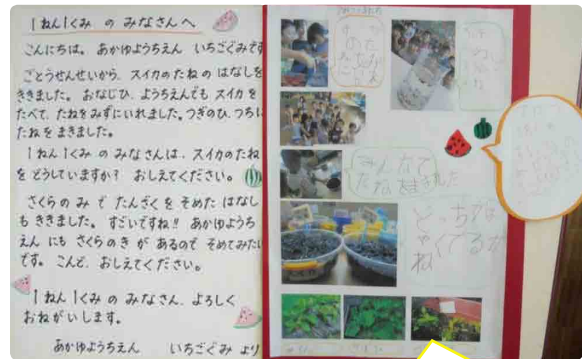
### 〈小学校教員から〉

#### 3年生：理科「植物を育てよう」

「1.5 cmくらいの種は2 mくらいに育つのかな?」「一粒の種を植えると1000粒くらいの種が採れるのかな?」など、子どもたちは、ヒマワリが自分よりとても大きい植物だということを就学前の経験から知っているの、科学的に考えて、数値にしていく場面では、容易にイメージを膨らませることができた。

参考事例：あやうたこども園（P.22）

## 幼児と児童の手紙交換



5歳児からの手紙



1年生からの手紙

同学区内の小学1年生の担任が、「今日、給食で食べたスイカの種を、子どもたちが水に入れたんですよ!」と教えてくださった。事前に、昨年の5歳児のスイカ作りを通して育った「科学する心」の姿をお話していたことから、共有したことを活かして、子どもたちに寄り添い発想を取り入れてくださった。在園中、浮く種と沈む種があることを発見した子どもたちが、学校でも試した姿であった。ここから、1年生と5歳児との手紙のやり取りがスタートした。

参考事例：赤湯幼稚園（P.31）

## 教育活動を深める連携の積み重ね



小学校・中学校との合同研究会



子どもの興味や探究に応えた交流・出前授業や教材を借りる支援など



○校区の幼稚園・小学校・中学校が、連絡会議、授業研究などを通して、様々な切り口や視点から、子どもたちの成長を捉え、学びのつながりを考えている。

○保育者は、小学校、中学校とも「学びのつながりの検証」を求めて、積極的に情報を伝え合っていく。

小学校の担任から：卒園児が、学校での授業に生き生きと参加し、積極的に行動する姿を報告いただく。

**理科の授業について**

- ・生物について、非常に興味関心が高く、昆虫や爬虫類などからの話題にもと詳しく、
- ・**種が何があるか、産卵回数があるか、体色・動き・種ごとの違いが分かっていることなど**
- ・モンシロチョウの羽化では、アダムスを経る際の顔の裏から外へ放つまでに羽を乾かさなければならないことを実際に説明、すべての種で羽化が成功した。
- ・普段の授業でも理科の時間は積極的に発言し、班のリーダーとして活躍。水や磁石を使った実験の方法も教科書を読んですぐに理解し、実験から結果へのプロセスやそのような結果になるかについての理解が早かった。
- ・磁石や電気のしくみ（IS周）も関心を持ち合ったり、電気を通す物質を磁石につく物質の違いなど）もよく理解していた。

**生き物類について**

- ・動物類に非常に詳しく、様々な生物の生態について詳しく、学校でも多くの動物を観ていた。（カメ・ヒト、昆虫類、ザリガニ、カエル、カメ）ザリガニの産卵が成功した際、他のザリガニと水種を分ける必要があるという観察や水を変える頻度などの違いが分かり、Yが他の児童に指示していた。

**これらの動物から学校に連れてきたのはYとその友人であり、これによって、本学級では多くの生物の命や成長に触れることができた。産卵や羽化など観察的な場面に出席することもあり、それまで虫や爬虫類を飼っていた児童も生き物と積極的に関わるようになった。**

参考事例：新堂幼稚園（P.16）